ポスター発表Ｐ⑥

地域育成型歯学教育プログラムの評価
－地域福祉体験学習の取り組みを通して－

中江弘美[1)]，日野出大輔[1)]，薮内さつき[2)]，竹内祐子[2)]，伊賀弘起[3)]，中野雅徳[4)]，
吉田秀夫[5)]，羽田　勝[2)]，尾崎和美[6)]，吉岡昌美[3)]，中道敦子[4)]，星野由美[1)]，松本尚子[6)]，
河野文昭[7)]，吉本勝彦[8)]

徳島大学大学院 HBS 研究部　口腔保健衛生学分野[1)]，口腔保健福祉学分野[2)]，口腔保健教育学分野[3)]，口腔機能福祉学分野[4)]，口腔保健基礎学分野[5)]，口腔保健支援学分野[6)]，総合診療歯科学分野[7)]，分子薬理学分野[8)]

１．緒言

近年、急速に高齢化が進む社会の中で、高齢者の健康長寿に口腔保健および福祉の専門的立場から貢献できる人材の育成が望まれている。

本学歯学部では教育ＧＰ「高齢社会を担う地域育成型歯学教育」の取り組みとして、医療人としての自覚と人間力の向上をめざし、地域に根ざす口腔保健・高齢者福祉の重要性を体得することを目的とした授業を行っている。今回、我々が行っている教育ＧＰ授業のうち、特に地域福祉体験学習の内容を紹介するとともに、その教育効果について考察したので報告する。

２．対象および方法

地域福祉体験学習は、徳島大学歯学部の正規授業（歯学科：早期体験実習、口腔保健学科：早期臨床実習）として実施し，表１に示すような一般目標、ならびに到達目標を設定した。学生は複数の実習施設において、教員の指導の下で口腔機能向上プログラムを実施した（表２）。

また、学生からのレポート提出および担当の施設関係者から、個々の学生へのコメントをＷｅｂサイトから記載できる教育管理ネットワークシステム「エデュネット」を構築し運用した（図１）。

表１　地域福祉体験学習教育目標

一般目標

医療人を志すものとしての自覚を持つ

到達目標

①　口腔保健・福祉を原点とした地域貢献のあり方を述べる

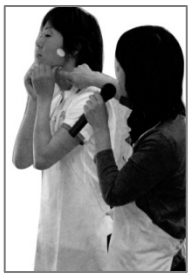
②　ＱＯＬ向上における歯科専門職としての役割を説明する

表２　プログラムの内容

実習期間　平成２１年４月～平成２１年７月

対象学生　徳島大学歯学部歯学科・口腔保健学科（２年生　５０名）

実習施設　介護老人保健施設・デイサービスセンター・社会福祉協議会関連施設等１２ヶ所



タイムテーブル

９：００	大学出発
９：３０	施設集合・学生による対象者のアセスメント
１０：００	歯科医師による講話
１０：３０	口腔機能向上のための健口体操・レクリエーション
１１：３０	実習終了

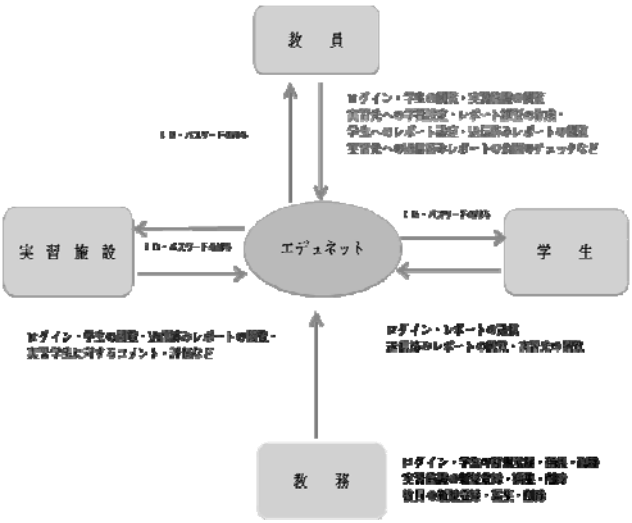


図1　教育管理ネットワークシステム「エデュネット」

３．結果および考察

学生に本授業に参加して習得したことを記載させた結果，34 名（68%）の学生がコミュニケーション能力について記述していた。多くの学生が、利用者との対応に重点を置き、コミュニケーションの大切さを認識したものと思われる。

また、表１に示す到達目標①に該当する内容が 11 名（22%）、到達目標②に該当する内容は 19 名（38%）に認められた。これらに該当する記述として「地域の高齢者の生活の向上に努めることは、歯科医師の大きな役割である」「歯科治療だけが歯科医師の仕事ではない」「口腔機能を向上させる必要性を感じた」など、学生がこの取り組みを通して、地域貢献のあり方や歯科専門職としての役割を認識した内容が認められた。到達目標に関する記載の比率が少なかった理由として、実習打ち合わせの段階で、到達目標に関して十分説明しなかったことや、学生自身が高齢者とのコミュニケーションに重点を置きすぎたことが考えられる。

一方、施設担当者からは、学生へのコメントとして「積極的に施設利用者との関わりを持とうとする意欲が伝わってきた」「医療・福祉の現場での活躍を期待する」など、教育目標に対する後押しの言葉を数多くいただいた。また、本取り組みに対する、表３に示すご意見もいただいている。

今回、学生からのレポート提出やそれに対する教員のコメント追記、あるいは実習施設への公開等をエデュネットで運用することにより、学生、教員、研修先との連絡が迅速になり、それぞれの距離が縮まったことを実感した。

以上から、地域福祉体験学習は施設現場との連携を深めながら、参加学生に一般目標とする「医療人を志すものとしての自覚を持つ」という教育効果が期待できる授業と考える。今後さらに、本授業の教育効果を検証するとともに、医療人としての自覚と人間力の向上を目指し、卒業時まで切れ目なく継続させるためのカリキュラムの構築を検討する必要がある。

表3　地域福祉体験学習について施設担当者からの声

Q．今回、地域での取り組みとして「口腔機能向上」をテーマに実習を行いましたが、いかがでしたか？

私達も本などを参考に口腔機能向上について勉強していましたが、実際にやるとなるとこれでいいのか戸惑っていました。今回直接指導に来てもらい、利用者さんに解りやすく説明をしている様子を見て、職員も頭の中だけではなく実際に理解ができました。専門職の方のアドバイスは、大変参考になりました。

Q．取り組みの内容や学生の様子はいかがですか？

巻き笛や吹き矢など、楽しみながら口腔機能向上プログラムを行えたことが、利用者さんにとっては大変良かったのではないでしょうか。私達も身体機能向上の取り組みを行う時など、利用者さんが楽しみながら行えることを大切に考えています。学生さんの、利用者さんの目線に立てる姿や距離感の取り方などには感心しました。利用者さんは、今も学生さんの話をしますよ。

Q．今後、期待するものは？

外部からの訪問は、利用者さんや私たちにとっても、いい刺激になっています。今後は、入れ歯の手入れや歯磨きの仕方、楽しみながら行える口腔機能のトレーニング方法などがあれば、教えて欲しいですね。
これからも、楽しく交流を続けていけるといいですね。